

令和5年6月1日



園 長 免出 智美

梅雨に入り、蒸し蒸しとした日が続きます。梅雨の晴れ間には園庭へ出て、虫探しをしたり水たまりで遊んだりと楽しみをみつける天才です。雨の日には肌寒く、晴れの日は夏のような暑さを感じられたりと気温・湿度共に変化が著しい頃となります。この時期から増える感染症や暑さ対策など、子ども達の健康管理には十分気をつけていきたいと思います。ご家庭でも健康管理に気をつけてお過ごしください。

6月行事予定			
月	B	曜	行 事 予 定
6	1	木	虫歯予防の集い
	10	土	保護者交流会 (どんぐり・たけのこ組) お弁当の日
	12	月	内科健診(再診の方のみ)
	14	水	園庭開放 身体測定(3・4・5歳児)
	15	木	身体測定(〇・1・2歳児)
	17	土	保護者交流会 (ひかり組)
	21	水	歯科健診 13:30~
	22	木	プラネタリウム観覧(ひかり組)
	24	土	お弁当の日
	28	水	おひさま広場(未就園児)
			「親子で絵本を楽しもう」
※変更の場合あり			

りす組の保護者交流会

アンケートの一部を紹介します。

- ○片付けの際はちゃんとまた元の場所に草や砂、道具を戻したり、こちらが「○○しよ」と言わくても自分で考えて行動してることに驚きました。
- ○2歳は大切な時期ということを聞いて、大変なこともありますが、その言葉を思い出して過ごしたいとおもいました。
- 〇少しの時間でしたが丁寧にゆっくりと子どもに向き合うことが できました。この気持ちを忘れず、また 2 人きりで遊ぶ時間も つくっていきたいなと思いました。
- 2歳児は頑固なまでに自己主張するようになり、表し方は言葉よりも行動先行です。発達の特徴は、大きく3つ考えられます。一つ目は「強情&駄々こね」。二つめは「独占欲」。三つめは「言葉より先に行動が先行してしまう。」です。子育ての悩みを一緒に考えながら、2歳児の発達を一緒に見守ってきたいですね。お忙しい中、ご参加いただきありがとうございました。



読み聞かせが脳に与える影響は偉大

乳児期から幼児期にかけて幼児は言葉を学び、文字や文字が書かれているものと出会っていきます。読み聞かせや、文字にかかわる大人とのコミュニケーションによって、例えば文字を読んでいる大人を目にして、子どもは徐々に読むという行為に気づき楽しみながら文字を読み始めるようになります。

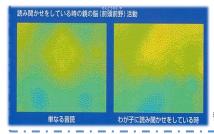
◇読み聞かせの意味①:親の読み聞かせは効果絶大!

読み書きより前に普段の生活の中で聞くところから、そして話すところから子どもの言葉発達は始まります。母親の 絵本の読み聞かせは、聞くことだけでなく、子どもの感情や記憶にかかわる脳の部分を刺激しています。幼児期まで の読み聞かせには、自然な文脈で言葉を学び、子どもを感情豊かにする、メリットがあります。

◇読み聞かせの意味②:子どもを文字に導こう

子どもは読み聞かせを通じて、「本というものがあること」や「そこには文字が書かれていること」「楽しいものであること」を学んでいきます。親と一緒に本を読む経験から、「読めたら楽しく、嬉しいだろうな。」ということを同時に学び、楽しく絵本に触れる経験によって、子どもの文字への関心が高まっていきます。子どもが分かっていないだろうからとか、動画を見せておけば楽だからとか思わずに、大人が積極的に読み聞かせにチャレンジしてみることが大事なのです。

◇読み聞かせの意味③:親にも及ぶ良い効果



山形県長井市の共同研究で、幼児への読み聞かせを多く行った親の育児ストレスが減少していたことが分かりました。特に親の子どもに対する捉え方が肯定的になり、ストレスを感じにくくなったことがわかりました。子どもの理解の程度や気持ちを想像しながら、親の読み聞かせも変わり、そのような過程が右のように黄色が広がり親の脳を活発にします。左の音読時の脳との違いが見られます。

参考文献:子ども達に大切なことを脳科学が明かしました(東北大学加齢医学研究所川島隆太・松崎泰)

ドキュメンテーションから抜粋(各クラス担任の1枚)

子どもは、遊びからたくさんのことを学んでいます。「**何を感じ**」「**気付き**」「**理解できる**」ようになるのか、「**試す**」「**工夫する**」「**表現する**」など学びに向かう力がドキュメンテーションに毎日記録されています。子どもたちの豊かな感性やおもしろい発想、友だちへの思いやり、協同する力をドキュメンテーションからみつけてください。



どんぐり (O 歳児)・たけのこ (1 歳児低月齢) 「いい音、みーつけた!」

スコップでテラスを叩くと音が鳴ることを発見していました。繰り返し遊ぶ中で、カチカチやコンコンといった音に心地よさを感じて笑顔になっていました。また、スコップを保育者に渡す姿も見られ、一緒に遊びたい気持ちを伝えたり気持ちを共有したりと、誰かと遊ぶ楽しさを感じ始めています。

たけのこ(1歳児高月齢) 「身体をほぐすと…」

ロールマットの上で金魚のリズムのうたに合わせて身体を揺らすことで、緊張をほぐしていき、終わった後は両手をついて手押し車のように進みながら降りていきます。身体が安定してくると、心も落ち着き、友だちや保育者と目と目を合わせて気持ちを通じ合わせることも増えてきます。



りす(2歳児) 「やってみたいがいっぱい!」

公園の遊具で遊ぶ中で『できるかな?』『ここはどうかな?』と試しながら登っていく姿がありました。最初は「こわい」と言っていたものの、友だちの姿を見て、挑戦したり、できた時に「すごっい!」と褒め合いこをしたりします。 体と心をのびのびと動かして遊ぶ中で友だちとの関わりも深まっていきます。

うさぎ(3歳児) 「どうぞのかかわり」

トマトを観察すると実がなっていました。トマトが青色であることに気付い たりトマトの個数を数えたりとトマトの性質や数を知っていきます。水やり では、順番を待ったり「どうぞ。」と交代をしたりと社会性も身についていっ ています。





そら(4 歳児) 「もう一回、チャレンジ!!」

比治山公園の崖登り。くさりを持って登るルートを選んで登り始めました。途中、前に進むことが怖くなり保育者と一緒にお尻で滑り降りると、すぐにまた挑戦。一歩一歩、くさりを握っては進んでと繰り返しながら登り切ることができました!やり切った達成感からもっとやってみたい!という意欲が芽生えます。

ひかり(5歳児) 「ありがとうってする日だよね」

金曜日、「日曜日って母の日でしょ?」と話が出ました。「母の日はバラとか花をあげるんだよ」と子ども達の会話から「折り紙で折れるんじゃない?」と折り紙の本を見ながら自分たちでも折ることができそうな花を探します。初めての折り紙に苦戦しながらも、「花を折りたい。」というやってみたい気持ちが高まり、友だちと協力・教え合いをしながら折っていきます。やってみたいは様々なことへの意欲になっています。

